



ほうきさん 7月

2016年

椋本673 存仁寺

往くも
還るも
他力ぞと
ただ信心を
すすめけり
「和訳正信偈」

— 広島の空 —

青空の下、私もその地に立ちました。献花も献花台もすでなく、スピーチの後方に映し出されていた原爆ドームのシルエットが訪れる人の心に、今もあの当時の面影を訴えていました。二〇一六年五月二十八日、世界が注目する中、アメリカ合衆国のオバマ大統領が立った地広島。大統領の目に何が映し出されたのだろうか、七十一年前の怖ろしい風景や、多くの犠牲者の声がどのように響いたのでしょうか。「二度と過ちをおかしてはならない。もう決して原爆による愚行を繰り返してはならない」と心に誓われたことでしょう。「すべての者は暴力におびえ、すべての者は死をおそれる。己が身をひきくらべて、殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ」、「実にこの世においては、怨みに報いるに怨みを以てせば、ついに怨みのやむことがない。堪え忍ぶことによつて、(怨みを捨ててこそ)怨みはやむ。これは永遠の真理である」(ダンマパダ『発句経』)お釈迦さまの言葉、教説は人間の在り様に対し、自我の怖ろしさに対して生きる道を説かれてきました。しかし、その説に反し、愚かしいことが何度も繰り返されながら時代は巡ってきた。いつの時代も誰もが一度きりの大切な人生を今生きています。言い換えれば、いのちが今この私を生きている。『仏説無量寿経』には「人在世間愛欲之中。独生独死、独去独来。身自当之、無有代者」(人、世間の愛欲の中にありて、ひとり生まれひとり死し、ひとり去りひとり来る。身みずからこれを受け、代わる者あることなし)といのちの厳しさが説かれてあります。個々はいのちの尊厳、誇りと、責務をもって生きよと。また、「縁」を通して様々なことにであう日々、生活、人生でもあります。人を傷つけていく生ならばやがては自分も、周りのすべても、安樂もしあわせもないことは、歴史が物語っています。

公園の西側にこんもりとした芝山がありました。この辺りで、原爆被害に遭われた方が火葬されたそうです。毎年八月五日の前日、お逮夜の日には法要が営まれます。「あなたは今、しあわせですか？」と問われた時に何と応えることができますか。

「広島」の空

さだまさしさん

その日の朝が来ると僕はまずカーテンを開き既に焼けつくような陽射しを部屋に迎える

港を行き交う船と 手前を横切る路面電車

稲佐山の向こうの入道雲と 抜けるような青空

In August nine 1945 この町が燃え尽きたあの日

叔母は舞い降りる悪魔の姿を見ていた

気付いた時炎の海に 独りさまよい乍ら

やはり振り返ったら 稲佐の山が見えた

もううらんでいないと彼女は言った

武器だけを憎んでも仕方がないと

むしろ悪魔を産み出す自分の 心をうらむべきだから

どうかくり返さないで くり返さないで

広島空に向かつて 唄おうと決めたのは その時だった

今年のその日の朝も 僕はまずカーテンを開き

コーヒーカップ片手に晴れた空を見上げ乍ら

観光客に混じって 同じ傷口をみつめた

あの日のヒロシマの蒼い蒼い空を思い出していた

In August six 1945 あの町が燃え尽きたその日

彼は仲間たちと蟬を追いかけていた

ふいに裏山の向こうが光ったかと思うと

すぐに生温かい風が 彼を追いかけてきた

蟬は鳴き続けていたと彼は言った

あんな日に蟬はまだ鳴き続けていたと

短い生命 惜しむように 惜しむように鳴き続けていたと

どうかくり返さないで くり返さないで

広島空に向かつて 唄ってる 広島空も晴れているだろうか

くり返さないで くり返さないで

広島空に向かつて 唄ってる 広島空も晴れているだろうか



7月の行事



1日(金) 6時30分 おあさじ

5日(火) 10時30分

町仏教会夏季法要準備会(西方寺)

7日(木) 13時30分 コーラス

15日(金) [新盆] 津市・亀山市

16日(土) 6時30分 おあさじ

21日(木) 無量寿会一日研修 湯ラックス

24日(日) 16時00分 仏教壮年会例会

親睦バーベキュー

30日(土) 7時30分 仏教婦人会墓地清掃

会員皆様でお世話になります

8月の行事

1日(月) 6時30分 おあさじ

3日(水) 8時おみがき、午後本堂清掃

11日(木) 盆参り 鈴鹿

12日(金) 四日市・桑名・名古屋

13日(土) [旧盆] 午前 西町 新道

午後 富家 新屋敷 岩原 豊久野

14日(日) 盆参り 午前 中町 新町 新町南

午後 花の木 団地



(初盆報謝の時間は8月号にて)

15日(月) 豊が丘・一身田・亀山盆参り

16日(火) 6時30分 おあさじ

8時30分 盆汁 新町南組

14時 灯籠送り・歓喜会法要

芸濃町内仏教会夏季大法要

町内各家の物故者方々を偲び法縁に遇わせて頂く
ご縁のご法要です。皆さん、是非ご参拝下さい。

7月30日(土) 法話 安楽寺 竜田剛雄師

7月31日(日) 法話 正宝寺 藤本愛吉師

両日とも13時よりおつとめ

会場 中世古 養宗寺(浄土真宗本願寺派)

2016 仏のこどもサマーキャンプ

2016年8月24日(水)～25日(木)《1泊2日》

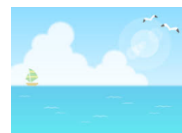
春日市少年自然の家(愛知県)

小学3年生～中学3年生まで

(保護者同伴は3年生未満でも参加できます)

子ども 3000円 大人 5000円

7月末までにお寺に申し込んでください



教区・鈴鹿組関連 7月、8月

7月25日(月) 教区連研履修者研修会

13時～16時20分

本願寺三河別院



「ホンマモンの念仏者」大阪 石崎博叙さん

2016年(平成28年)8月19日(金)

お寺にいこう！夏休み！

9時30分 存仁寺集合

17時30分 解散 (小・中学生の皆さん)

持ち物 お念珠・宿題・水筒・おやつ

8月10日までにお寺に申し込んでください

「巻頭法語『育てられる』太田利生勸学」より

二〇一六年 大乘七月

性を定めさせていただくのです。

世間では、育てるといふ文字がよく使われ、育てることの意義が議論されます。育てている実感がないということには、どんなことが宿されているのでしょうか。おそらく、赤ちゃんの持つ純粋なもの、清らかさにふれて出てきた言葉ではないかと推察されます。乳児は本当に純粋そのものです。誰に対しても区別せず、笑顔をみせてくれます。顔を見ているだけで、とげとげとした気持ちが消え失せていくような、そんな経験はだれにもあることです。そして今一つ、母子の一体感、それを感じる事ができました。それは、子どもが母親に抱かれ安心して寝ている姿を見ることができたからです。人間は大きな力によらねば生きていけない存在なのだ、そんなことを思いながら、仏さまのことにこころが向いていきます。智慧と慈悲の阿弥陀如来は、すべての人を等しく平等に救いとうととはたらきかけてくださっています。また、その光は調熟の光明といわれるように、私たちを育ててくださるのです。今、如来の光を蒙ることによって、私たちは歩む方向性を定めさせていただくのです。

「往くも 還るも他力ぞと

ただ信心をすすめけり」